立会弁護士の意義―ブラッシュアップ研修会を通して―

骨髄等提供同意立会特別委員会副委員長　小泉　桂（64 期）

骨髄等提供同意立会特別委員会（以下「当委員会」という）は，公益財団法人日本骨髄バンク（以下「骨髄バンク」という）からの要請に基づき，非血縁者間における骨髄移植又は末梢血幹細胞移植について，骨髄又は末梢血幹細胞ドナー候補者（以下「ドナー候補者」という）が，骨髄提供又は末梢血幹細胞提供についての最終同意をする際のコーディネートに立ち会う弁護士の派遣業務を行っている。立会弁護士の役割は，この最終同意面談が適切に行われているかどうか，公正な第三者として確認することにある。

立会弁護士として活動するためには，当委員会が定める研修会へ参加し，骨髄等提供同意立会弁護士派遣名簿へ登録されることが必要である。本年度は，研修の一環として，2018年12月3日，講演を主としたブラッシュアップ研修会が開催された。

講演者は，第71期司法修習生の仲井間滋之氏（以下「仲井間氏」という）である。仲井間氏は，白血病患者として骨髄提供を受けた経験があり，我々立会弁護士が普段接することのできない患者の視点からの講演を頂いた。講演内容の一部を抜粋すると以下のとおりである。

白血病と診断された経緯について，仲井間氏の場合，これといった自覚症状はなかったという。ただ，お酒を飲んでも美味しく感じなかったことを，肝臓病ではないかと疑ったことが端緒というから，異変を感じた際に受診することの大切さは言うまでもない。

2008年に白血病と診断された当時，仲井間氏は会社員として働き盛りでありながら，引き継ぎもできないまま入院する。このときの治療方法は，強力な抗がん剤の投与であった。この化学療法によって寛解状態となったことから，2009年には一旦職場復帰を果たす。

ところが，2010年4月，白血病が再発する。このときも，特に自覚症状はなかったという。

化学療法だけでは再発の可能性が高いと診断されたため，仲井間氏は骨髄移植を受けることとなり，家族のHLA（白血球の血液型）を検査するが，移植を受けられる家族は見つからず，骨髄バンクに登録する。

仲井間氏講演の様子

その後，ドナー候補者が見つかったため，仲井間氏は骨髄移植に向けて，3回にわたり大量の抗がん剤の投与を受ける。この際，白血球はすべて死滅し，免疫不全状態になることから，虫歯一本すら残せなかったとのことである。仲井間氏の場合，抗がん剤の投与の合間に虫歯を2本抜歯し，さらには親知らずも切開して抜歯したという。

2010年10月13日，仲井間氏は，ドナーから提供された骨髄（造血幹細胞）を静脈から投与する輸注によって骨髄移植を受け，骨髄は無事に生着し，現在は，フルマラソンを完走できるまでに回復しているとのことである。

ドナー候補者との最終同意面談において，移植を希望する患者がどのような状態にあるのか，立会弁護士に知らされることはなく，仲井間氏の講演は，患者側の様子を知ることのできた貴重な機会であった。また，立会弁護士として，最終同意面談に立ち会うことの意義を再確認できた機会でもあった。

2018年における当会からの最終同意面談への派遣件数は468件である。立会に協力いただいている当会会員には，この場を借りて御礼を申し上げるとともに，興味をもたれた当会会員におかれては，新規立会弁護士研修会の受講とともに立会弁護士派遣名簿への登録を強く薦めたい。

2019年度 東弁役員等選挙
次期会長は篠塚力会員

2019年度東弁会長，副会長，監事，常議員及び日弁連代議員の選挙が1月28日（月）に公示されたが，いずれも定員以内の立候補に留まったため，予定していた不在者投票および投票は行われなかった。

当選者は，会規により2月8日（金）午後4時の経過と同時に確定し，確定後，役員当選者の当選証書授与式が2階講堂「クレオ」で行われた。

2019年度新執行部

東弁役員選挙結果

■**会長選挙　当選者**（無投票）
篠塚　　力（36期）

■**副会長選挙　当選者**（無投票・立候補届出順）
江坂　春彦（46期）
中西　一裕（42期）
川村　百合（49期）
村林　俊行（49期）
池田　和郎（44期）
永島　賢也（49期）

■**監事選挙　当選者**（無投票・立候補届出順）
吉田　　修（50期）
加納 小百合（47期）

※常議員，日弁連代議員名簿はLIBRA4月号に掲載予定